

平成25年度 学内教育GPプログラム事業経費計画書（萌芽型）

事業名称	グローバル女性リーダー育成 高度リベラルアーツプログラム
取組代表者名 担当者名	<p>小玉亮子（教育企画室長） 小谷眞男（大学院人間文化創成科学研究科准教授） 最上善広（理学部長） 加藤美砂子（広報推進室長） 長谷川直子（大学院人間文化創成科学研究科准教授） 北林春美（グローバル協力センター准教授） マルセロ デ アウカンタラ（大学院人間文化創成科学研究科准教授） 申 琪榮（大学院人間文化創成科学研究科准教授）</p>
事業内容	<p>本事業は、パイロット的プログラムとして実施され、平成25年度文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」申請の準備とする。プログラム採択後には、本事業のノウハウを生かして事業を順次拡大していく予定である。</p> <p>現在、博士課程修了者にたいしては、従来の研究職のみならず多方面での活躍が求められているが、特に、国際的にも日本における女性リーダーが活躍できない状況が問題視される中であって、IMFのワーキングペーパー（Chad Steinberg, 中根誠人(2012)「女性は日本を救えるか」、http://www.imf.org/external/pubs/ft/fandd/jpn/2012/09/steinbergj.pdf)に見られるように、あらゆる分野における女性のリーダーの活躍が期待されている。現代においてリーダーに求められるものは、高い専門性と広い視野から俯瞰できる幅広い教養である。お茶の水女子大学のリーダーシップ教育において、学部段階ではすでに先行してリベラルアーツ教育改革が推進されているが、これをより高度化したプログラムが大学院教育においても推進される必要がある。</p> <p>そこで、本事業は、博士課程在学者を対象とした高度リベラルアーツプログラムとして、試行的に二つの事業を開始する。</p> <p>1、トランス・サイエンス 高度リベラルアーツは、お茶の水女子大学における文理融合の理念をもとに、トランス・サイエンスの考え方を中心に構想される予定である。 そこで、25年度は、文理融合高度リベラルアーツの柱となるトランス・サイエンスをテーマとして、大学院リベラルアーツ講義と演習を試行する。合わせて、トランス・サイエンスをテーマとしたシンポジウムを開催する。</p> <p>2、海外実践的活動支援 高度リベラルアーツにおいて、グローバルな視点は不可欠である。これまでの本学の大学院生の海外派遣に関しては、留学や調査研究を目的としたものが主であり、リーダー育成に不可欠な企業やNPO等各種団体におけるインターンシップ活動を対象としたものは実施されていない。大学院生を対象とした類似のプロジェクトとしては、平成23年度より博士課程のポストドクター・インターンシップ事業が行われているが、この事業では、国内におけるインターンシップが中心である。従って、本事業は、海外における企業や各種団体でおこ</p>

なわれるインターンシップ事業に院生を派遣することを目的とする。

院生の派遣は、16万円を限度として、平成25年度は試行的に3名程度募集する。

上記二つの事業を試行的に開始し、その成果を検証しつつ、高度リベラルアーツプログラムの在り方についてさらに構想を発展させる。

参考

